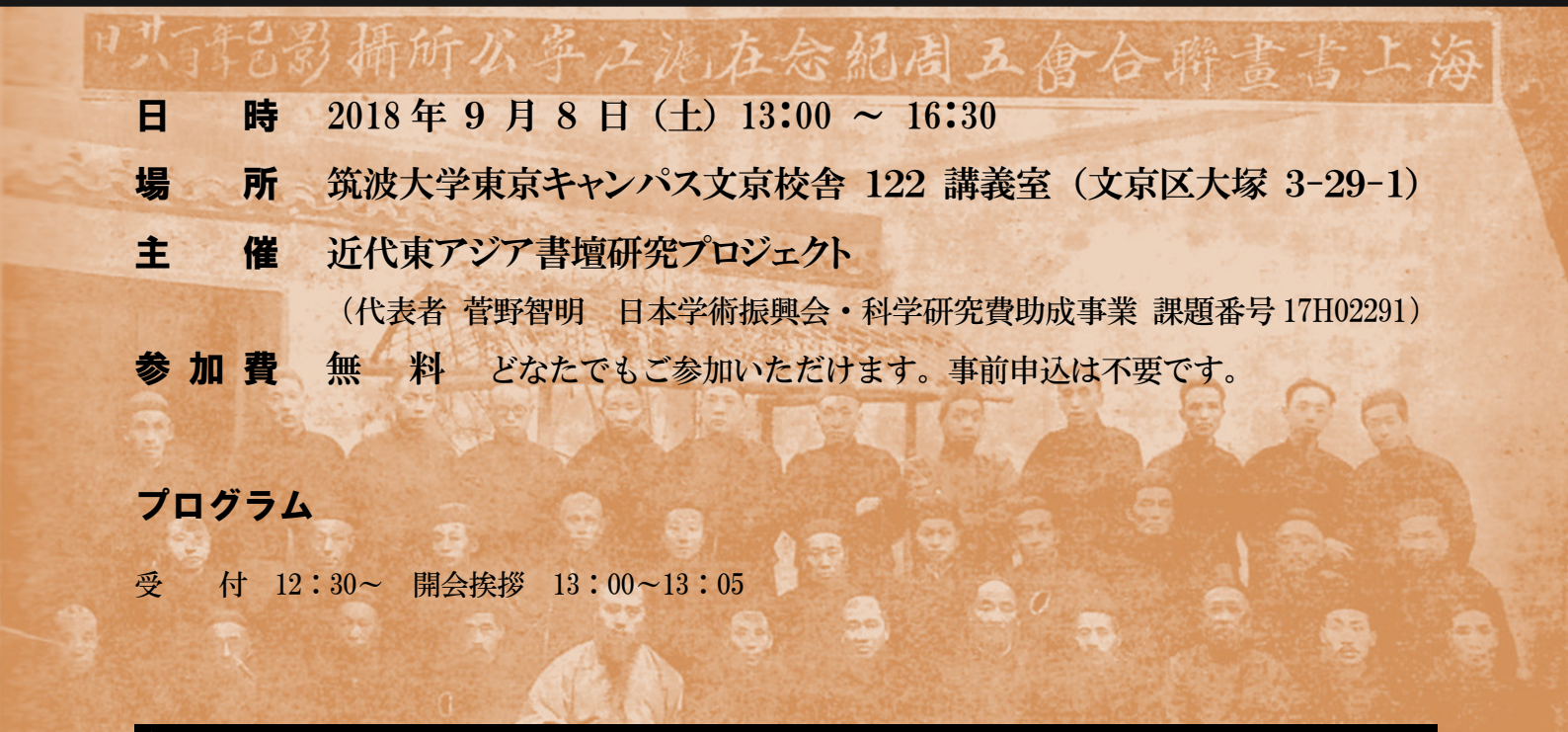
シンポジウム　近代東アジアの書壇

書壇と称される書家たちのつながりは、それぞれの書家たちが結成・所属した種々の組織・団体を基盤とするところがあります。近代になると、書家たちは多岐にわたる組織・団体を活発に設立させますが、その動向は日本のみならず朝鮮や中国にも顕著で、地域によって独自色がうかがわれます。
このシンポジウムは、近代朝鮮美術史を専攻される喜多恵美子氏の基調講演に加え、プロジェクトメンバー5名の研究発表と討議で構成いたしました。これにより、近代の東アジア各地に設立された書の組織・団体と、それに基づく書家たちの書壇活動について、相互の比較から理解を深めつつ、書壇の来し方・行く末を展望してゆきたいと思います。



日　　時　2018 年 9 月 8 日（土）13:00 ～ 16:30

場　　所　筑波大学東京キャンパス文京校舎 122 講義室（文京区大塚 3-29-1）

主　　催　近代東アジア書壇研究プロジェクト
（代表者 菅野智明　日本学術振興会・科学研究費助成事業 課題番号 17H02291）

参 加 費　無　料　どなたでもご参加いただけます。事前申込は不要です。

プログラム

受　　付　12：30～　開会挨拶　13：00～13：05

第 1 部　基調講演　13：05～14：05

朝鮮における書画の位相と近代画壇

喜多恵美子氏（大谷大学教授）

第 2 部　登壇者発表　14：15～15：30

書画協会の結成とその活動について

金貴粉（大阪経済法科大学研究員）

清末民初の上海における書画団体の動向 ―豫園書画善会を中心に―

髙橋佑太（二松学舎大学専任講師）

日本の中国書画碑帖コレクション形成の要因について ―「収蔵集団」を起点として―

下田章平（相模女子大学専任講師）

高村光太郎と近代書道史 ―父子関係と明治時代の書の一側面―

矢野千載（盛岡大学教授）

昭和初期の書道団体 ―正筆会を例に―

髙橋利郎（大東文化大学教授）

第 3 部　討議　15：40～16：30

司会　菅野智明（筑波大学教授）

問い合わせ先　〒305-8574 つくば市天王台 1-1-1 筑波大学芸術系 菅野智明研究室 TEL/FAX 029-853-2715

写真：「海上書画聯合会」（『墨海潮』創刊号 1930 年）